

3～5 月 事業実施報告

事業名	【子どもセンター合同事業】町田市一周チャレンジハイク
目的	・一人ではなく、一緒にやる仲間がいるからこそできたという経験から、仲間(人)の大切さに気づき、社会性を育む。 ・苦しいチャレンジを成し遂げた達成感を今後の生活の自信に繋げる。 ・歩く速さで町田の新しい発見を通して、自分の住む町田に愛着を育む。
日時	2026 年 3 月 26 日(木)～28 日(土) 2 泊 3 日
主な対象と参加者数	小学 5 年生～18 歳 小学生 11 名、高校生 2 名、計 13 名
講師・協力者等	・指導補助者(大学生、社会人) ・つるっこ応援し隊(1 日目夕食)
内容	・町田市一周約 70km を 3 日間かけて歩く活動。 【初日】市庁舎…ばあん…グランベリーパーク…つくし野コミュニティーセンター…成瀬台小学校…玉川大学…鶴川駅前五反田公園…FC 町田ゼルビア三輪緑山ベース…悠々園…つるっこ【宿泊】 【二日目】つるっこ…小野路宿里山交流館…小山田小学校…多摩境…堺市民センター…東京家政学院大学…NatureFactory 東京町田【宿泊】 【最終日】NatureFactory 東京町田…ぱお…小山公園…小山子どもクラブ…桜美林大学…ただ ON…市庁舎
様子等	・1 日目は午後 3 時ごろまで、2・3 日目は一時、雨が降る不安定な天候の 3 日間であったが、予定通り 3 日間のプログラムを実施することができた。 ・初参加の 5 年生が、2 日目からペースが上がらなくなり、そのことで 6 年生が全体のペースを心配する場面があり、職員が班のペースで良いことを伝え、5 年生のペースに合わせ歩くことができ、グループのまとまりが生まれた。 ・小野路の里山や相原の七国峠など、車では入れない道を歩いたことで、「町田の大自然に触れた」「自然の道は歩きやすい」などの感想があり、参加者が新たな町田を知るきっかけになった。 ・1 日目の夕食は、つるっこ応援し隊の皆さんによる恒例のつけ汁うどんと季節のお野菜の天ぷらをいただきました。「苦手な野菜も食べられた」「明日へのエネルギーになった」などの感想があり、どの子もたくさん食べていた。

子どもセンターつるっこ開館 21 周年記念イベント

あにばーさりい 21 実施報告

○目的

- ・子どもセンターつるっこ 21 歳の誕生日をみんなで盛大にお祝いする。
- ・子どもたちが、地域の方々のノウハウを活かしたコーナーで楽しむと共に、地域の人と人をつなぎ、活動の場を広げるきっかけとする。

○イベント日時:2026 年 4 月 19 日(日) 午前 11 時～午後 3 時

○参加者数:1,226 人

内訳:乳幼児 273 人・小学生 358 人・中高生 78 人・大人 447 人・関係者 70 人

○コーナー、ステージ発表

コーナー内容	団体名
スライム工作、スタンプラリー、ヨーヨーつり	子ども委員会
模擬店)かき氷、ミニラーメン、駄菓子	つるっこ応援し隊
竹でっぼう	鶴川第一地区委員会
模擬店)フランクフルト	鶴川第二地区委員会
模擬店)わたあめ	鶴川第三地区委員会
模擬店)ジャガバター、ふかしいも	金井町内会
模擬店)チヂミ	真光寺中学校 おやじの会
模擬店)ポップコーン、ポン菓子、ラムネ飲料	鶴川冒険あそびの会(つるぼう)
模擬店)コロッケ	小野路宿里山交流館
コッパトイ(木工作)	東京土建町田支部鶴川分会
コリントゲームコーナー	三輪子どもクラブ「MIWA～GO」子ども委員会
クーゲルバーン、コリントゲーム	きつねはらっぱ冒険あそび
ユニバーサルスポーツ モルック体験	野津田高校ユニバーサルスポーツ同好会
サッカーゴルフ	FC 町田ゼルビア
地場産野菜販売	町田市農業協同組合 アグリハウス鶴川
ごみ収集体験ほか	町田市環境政策課 3R 推進係
キラキラタイム(歌、手あそび、大型シアター)	鶴川地域子育て相談センター
ステージ発表内容	出演者・出演団体等
吹奏楽	鶴川中学校吹奏楽部
チアリーディング	ハートエンジェルス
バンド演奏	THE VINCI(和光高等学校学生)
歌・ピアノ・ウクレレ等演奏	個人(3 組)
ゼルビア体操	FC 町田ゼルビア

○協力 イベント運営支援:地域ボランティア

事業名	ゴールデンウィークスペシャル
目的	・空間を大きく使う楽しさと遊びを介して他の親子や異年齢の子ども同士が交流する喜びを感じる。 ・その時期ならではの季節の行事に触れることを楽しむ。 ・自分で選んで作り上げることの達成感を味わう。 ・館内を巡りながらクイズに答えることで、つるっこや地域を知る機会を設ける。
日時	2026年5月4日(月)、5月5日(火)
主な対象と参加者数	幼児～18歳 ①電車と車のおもちゃであそぼう♪計23名②きまぐれ工作スペシャル 計52名 ③つくくんなぞとき 計22名
講師・協力者等	なし
内容	①プラレールの線路やトミカの道路をたくさん繋げて、電車や車を走らせる。 ②工作の見本を見て自分が作りたいものを決め、工作キットを使って製作する。 こいのぼりやけん玉、ぶんぶんごま、母の日に向けたカードなど8種類。 ③館内を探検しながら、なぞときを解く。
様子等	①のびのびと線路や道路を繋げ、遊びを楽しむ様子が見られました。 持参した電車や車を走らせて喜ぶ姿が見られました。 ②工作を楽しみに来館する子どもや複数個制作する子どもも多く見られました。 ③親子や兄弟など家族で楽しんだり、友たち同士で誘い合う姿が見られました。 館内をくまなく見て回り、じっくり取り組む様子が見られました。

事業名	木の遊具お手入れデー
目的	・子どもたち自身が修繕することにより、木を身近に感じ、「木育」といわれている学びのきっかけにする。 ・仲間たちとの作業を通して楽しい時間を共有しその気持ちを共感する。 ・参加者同士が交流を通して、新たな繋がりや絆のきっかけを作る
日時	2026 年 5 月 16 日(土)、17 日(日) 午前 10 時～午後 4 時
主な対象と参加者数	小学生5名、中学生～18 歳1名 計6名
講師・協力者等	一般社団法人森遊クラブ、ボランティア 5 名
内容	① 滑り台の修繕:滑り台の滑り板およびその枠部位の取替・補修。 ② ハンモックやぐらの修繕:支柱土台の撤去と設置(新)。支柱の取替・補修。 ③ 古くなったスラックライン土台および支柱の撤去。 ④ スラックライン土台および支柱の新設。
様子等	小学生5年生以上の参加希望を募ったが、参加してくれた子どもは子ども委員会のメンバー(小学3年生、小学4年生)と大学1年生(18 歳)、であった。年齢の低い子どもたちが多かったため、力仕事や工具を使った作業、危険を伴う作業等は任せられなかったが、ペンキ塗りやコンクリート加工(混ぜる、型に入れる)など参加することができる場面では、想像以上の頑張りを見せてくれた。 最も苦労した作業は「ハンモックやぐら」や「ブランコ土台」のコンクリート基盤土台の掘り出しと撤去であった。特に掘り出し作業では、子どもたち、保護者、スタッフ総出でコンクリート片にロープをかけて「綱引き」を行い、搬出できた際は歓声を上げて大いに盛り上がった(この場のみの協力者は参加者数に含まず)。暑い中での作業であったが、子どもたちも長時間集中力を切らさず、怪我や事故なく 無事終了することができた。